



地域医療が危ない！
医療機関が倒産の危機に瀕していることを
世の中の人々に知ってもらふこと、
そして医療従事者と地域の人々がともに
国に働きかけていくことを目指し、
「ちいきをまもる」行動を起こします。

(尼崎医療生活協同組合「ちいきまもるチーム」)

チームで目指す 『今年の漢字』特集

チーム医療、医療と介護の一体化、
医科歯科連携、多職種連携をアピール！

2・3面に続く

いのちと暮らしを守り 社会保障を充実する 政策へ転換を！

新年明けましておめでとうございます。

昨年は兵庫民医連の活動にご参加をいただきありがとうございました。2025年は、コメなどの食品を中心にもものの値段が上がり、わたしたちの暮らしはさらに苦しくなった1年でした。介護報酬・診療報酬は政府の政策により低く抑えられ、兵庫民医連加盟の各事業所でもとても厳しい経営状況となりました。県連の医師臨床研修プログラムを担う尼崎医療生協病院の研修定員は、2026年度も0名となりました。全日本民医連とも連携し、様々な機会で兵庫県の臨床研修の現状を訴え、新たなつながりができています。11月には全国青年ジャンボリーが、6年ぶりの対面形式にて兵庫県で開催されました。参加された青年職員の笑顔と学び考え行動する姿に、私たちが元気をいただきました。

今年は丙午（ひのえ・うま）で、大きな変化が起こり物事が大きく進みやすい年と言われています。高市首相は、安保3文書の改定を目指すなど軍事力強化を進めています。強い経済を実現する総合経済対策では、介護と医療への支援とともに国民に負担を求める「社会保障改革」が示されています。経済対策の第3の柱として、防衛力と外交力の強化も掲げられました。軍事費は、2025年度当初予算と補正予算案を合わせると、GDP比2%に到達します。兵庫民医連は、日本国憲法の理念を掲げて、全ての戦争政策に反対をしてきました。今年こそ、日本政府の政策を戦争の準備ではなく、いのちと暮らしを守り社会保障を充実する政策に転換させましょう。

本年もよろしくお願いいたします。

兵庫県民主医療機関連合会
会長 大澤 芳清



2026年! チーム

医療介護はたくさんのチームで成り立っています。そのような中、各法人にも、いろんなチームがありますよね。今回はそんなチームの皆さんから、「今年の漢字」をご紹介いただきました。今回は「関西共同印刷所」のみなさまのチームもご参加いただきました!いつもこの紙面を作ってくださっている方々と協同し、今年も元気を与える兵庫民医連ニュースを作っていきたいと思っています!

神戸健康共和国

健康フラダンスサークル



笑

組合員と職員のサークルとして「運動習慣」と「人との調和」を大切に「持病があっても元気でいたい」と頑張っています。

2026年は自然に笑顔がでるように、メンバーを増やしたい、ステージに出演することを目指します。

社会福祉法人駒どり

駒どり訪問介護チーム駒ちゃん



繋

24時間365日対応で「生活」と「心」を支え、多職種連携の中心となる質の高い「専門職」ケアを提供。この3つの価値を次世代の若手へ繋ぎ、地域安心ネットワークの要を担える人材を育成していきます。

で目指す『今年の漢字』



神戸医療生活協同組合

65周年実行委員会「平和」グループ



繋

神戸医療生協は2月で創立65周年を迎えます。65周年実行委員会「平和」グループとして、地域とのつながり、人となつたり、平和の想いをつないでいく。私たちが「『繋』げていく」という気持ちを込めています。

姫路医療生活協同組合

「生協10の基本ケア」推進プロジェクトチーム

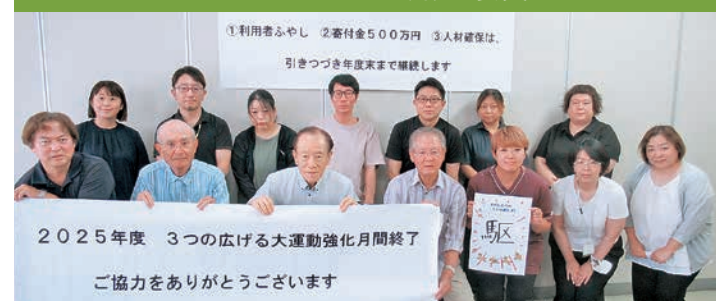


進

2025年は法人内の10ケアトレーナー育成や事業所での取り組みなど、法人目標に向けて一定の成果は得られました。2026年は、次の目標に向けてさらに進化していきたいとの思いから『進』の字を選びました。

社会福祉法人虹の会

3つの広げる大運動推進委員会



駆

毎年、虹の会3つの広げる運動は、①利用者ふやし②寄付金500万円③人材確保の3つを掲げ、虹の会・尼崎医療生協・ヘルス企画と3つの法人が協力して取り組んでいます。2026年も駿馬のごとく3つの目標に一丸となって、駆け抜けていきます!

宝塚医療生活協同組合

広報委員会



活

組合員さんが読んでためになる、元気になる紙面づくりを心がけています。事業所や支部の活気ある取り組みをどんどん発信していけるように、編集委員もアンテナを張り巡らせて頑張ります!

たじま医療生活協同組合

ろっぽう診療所



温

心のゆとりや穏やかさをもちアットホームな診療所にしていきたい。不安定な社会情勢のなかでも、人と人の温かいつながりをたいせつにしていきたい年をしたい。そういう思いを込めて「温」となりました。

関西共同印刷所

関共飛びまわる3課チーム



飛

来年も皆さまに寄り添う機関紙づくりをさらに深め、社会とつながり貢献し飛翔できる編集を目指したいです。全ての人の尊厳の遵守と平和を願い皆さまと共に歩んでまいりたいです。



事業所・職場紹介

輝 いて います！

音楽療法と生協10の基本ケアを 実践する、安心と笑顔の拠点

姫路医療生協 デイサービスつどい 所長 嶋尾 重光



デイサービスつどいでは「音楽療法」と「生協10の基本ケア」を導入し、実践しています。「生協10の基本ケア」は、その人らしい生活を取り戻すことを目指した一連のケア指針です。

「音楽療法」

ピアノなどの生演奏に合わせて、利用者様全員が鈴やタンバリン、太鼓など好きな楽器を自由に演奏します。普段、発声や嚥下が難しい方も音楽療法で顔



の表情筋が鍛えられ、表情が柔らかくなり、笑顔が増えるなどの効果が見られます。

音楽に合わせた体操は身体機能の維持・向上に役立ち、合唱や楽器の演奏で利用者様同士の交流も深まり、社会性や生活の質の向上につながっています。懐かしい曲が始まると、若い頃の思い出を話され、心も元気になっているようです。

「生協10の基本ケア」の実践

「換気をする」「床に足をつけて座る」「トイレに座る」「あたたかい食事をする」「家庭浴に入る」など、日常生活の中にリハビリの視点を取り入れた10のケアを日々実践しています。このケアは、利用者様の自立支援と生活の質の向上を目指すもので、その一環として、毎日「おじぎ体操」や「おしりあげ体操」といった運動を取り入れ、トイレでの立ち上がりやズボンの上げ下げ、入浴動作などの改善・向上を図っています。さらに、機能訓練指導員が居宅訪問を行い、環境面を評価し福祉用具を提案することで、自宅で

の自立生活を支援しています。

自宅での自立が進むと、次の目標は外出です。カフェでお茶したり、買い物に出かけたりしています。外出することは身体機能面の維持・向上だけでなく、新しい発見や意欲の向上にも繋がります。さらに、他者との交流も増え社会的なつながりを保つことができます。



「生協10の基本ケア」を実践することで、その人らしい生活（QOL）を高めることができていると感じています。「生協の10の基本ケア」が大事にしていることは、「尊厳を護る・自立を支援する・在宅を支援する」です。利用者様が当たり前の生活を安心して過ごせるよう、今後も支援していきます。

事業所の窓から～歴史と地域紹介～

姫路医療生協

過去と未来をつなぐまち 四郷

24

地域で盛り上げる
古代ロマン

デイサービスつどいから南東へ3キロほど離れた四郷町。この四郷町の見野地域には、古墳時代後期～末期頃（6～7世紀）に築かれた古墳群があります。大小合わせて20基の古墳が確認されており、2006年には10基が姫路市の指定文化財に、さらに2019年にはその中の4基（3号・4号・6号・10号）が兵庫県指定文化財に登録されました（2025年11月現在）。古墳群の中心には史跡公園が整備されており、「古墳ロード」と呼ばれる散策ルートを通じて、見野古墳群の歴史や自然を楽しむことができます。

見野古墳群の中で、最も特徴的なのが6号墳です。2つの横穴式石室が並ぶ双室墳は、全国でも30基ほどしかない珍しいもので、地元では夫婦塚めおとづかとも呼ばれています。2007年には双室墳から小型の獣の足跡が付いた須恵器すえきが発見されました。専門家によれば、この足跡は猫のものである



▲当時の相当な権力者の墓とされる3号墳



▲大変珍しい夫婦塚 6号墳



可能性が高いとされ、6世紀末から7世紀初頭には日本に猫が存在していたことを示す重要な証拠とされています。乾燥しきっていない器の上を猫がうっかり歩いてしまったために出来た足跡が、時を超え現代で話題になるのもある意味“古代ロマン”かも知れません。

他にも、10号墳は蘇我馬子の墓といわれる奈良県 明日香村の石舞台古墳を連想させることから「姫路の石舞台」と呼ばれています。



▲姫路の石舞台 10号墳

3号墳は石室の全長が11mを超え、姫路市内でも有数の規模を誇り、当時相当な勢力を持った人物の墓であったと推定されています。ちなみに、3号墳はその後再利用され、中世の時代まで活用されていたそうです。

見野古墳群の近隣には、県指定史跡の宮山古墳や姫路市埋蔵文化財センターなどがあります。毎年11月には「古墳祭り」も開催されており、



▲姫路市埋蔵文化財センター

地域の人々が協力し、古代の魅力を伝える活動を展開しています。

生存権 No.185

家に帰りたい、帰してあげたい ～夫婦の今後の暮らし～

氏名：A氏
年齢：70代男性
経済状況：年金生活
世帯：妻と2人暮らし
要介護5
(入院中に新規申請)

兵庫民医連 ソーシャルワーカー委員会

経過

昨年5月、自宅にて左半身麻痺と呂律困難が生じ、救急搬送、脳梗塞の診断で他院入院、その後6月にリハビリ目的で当院に入院されました。左重度片麻痺に加え、構音障害、嚥下障害残存、経口摂取困難にて胃瘻造設をされていました。意欲は緩慢で、うつ傾向もあり、しきりに「死にたい」などと悲観的な発言が目立ちました。しかし一貫して「家に帰りたい」との思いを口にされていました。

妻はほぼ毎日バスと電車を乗り継いで、片道約1時間の病院までの道のりを通われていました。入院時よりご本人の想いを尊重し、在宅復帰方向でリハビリを進めましたが、後遺症が重度で、移乗も全介助（重介助）であり、車いす座位保持も短時間、ADL全般において介助が必要な状態がなかなか改善せず、ベッド上での生活が続きました。

入院から2か月が経過し、病状説明し、再度方向性の確認を行いましたが、在宅復帰の意向は変わらず、退院調整が開始されました。分譲マンションにお住まいでしたが、エレベーターなしの5階に居住。これが最大の障壁となりました。自宅に帰ると外出困難な状況が想定され、妻は引っ越しも視野に入れ、物件探しやサービス付き高齢者住宅へ夫婦一緒に入居することも考えましたが、費用



面や引っ越しに伴う身体的負担、また、家族や親類の「そこまでして」という意見もあり、MSWと幾度も面談を重ね、あらゆる選択肢を検討していきました。

最終的に、妻は熟慮の上、「本人を説得します」と、自身の体力的な不安、引っ越ししての新生活の負担等を鑑み、今回は自宅より車で15分ほどの距離にある介護老人保健施設入所を決断されました。

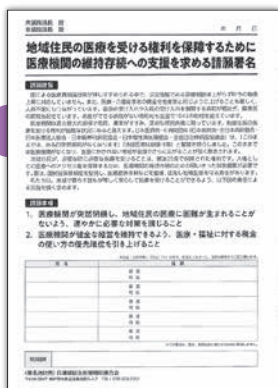


考察

回復期リハビリ病棟への脳疾患での入院だったため、4か月という時間の中で、本人、妻の想いを十分に聴くことは出来ました。自分の家で最期を迎えたい意向は変わらず、退院時の妻の言葉は、「施設入所後もあらゆる可能性、希望を探していきます」でした。

困難な状況、環境の中で、いかにして住み慣れた場所での自分らしい暮らし、最期の迎え方を実現できるのか。それを支える支援の在り方を考えさせられる事例でした。

緊急行動署名



兵庫民医連の到達

35,815筆
達成率79.6%
目標まで
あと9,185筆!
(12月16日現在)

11/27~29 全国ジャンボリー in兵庫

無事終了しました。参加者・助言者のみなさま、お疲れ様でした。
そして大いに奮闘した実行委員のみなさまに敬意を表します!



読者の声

- 前回の事業所の窓からの記事、住吉学園と住吉神社の由来、有馬街道についてなど、身近ですが知らなかった事があり、とても興味深かったです。

ペンネーム あかこ

- 寒くなり始めました。インフルエンザも流行りだし、手洗い、うがいをしっかりして、予防しないといけないねと母親と話しました。

ペンネーム ちこ

- アンケート結果を見てSNSを通じて政治のことを学んでいます。選挙に行くようになりました。

ペンネーム ぴかちゅう

- 地域医療を守る「緊急署名」地域組合員さんが積極的に集めてくださっています。支部ごとに学習会も開かれ、街頭署名でも沢山の人が署名に応じて下さいます。目標達成に向けて頑張りましょう。

神戸医薬研究所OB
村川美和子

- 診療所では日々業務に追われながらも毎日のお昼休憩、みんなでお菓子を食べるのが癒しの時間になっています。

ペンネーム
あぶりこっと

- 暑かった夏が終わり、朝晩は寒いと感じるくらいになりました。薄手のカーディガンから厚手の上着に衣替えできない利用者さんがいます。厚手の上着を持って来るよう、声を掛け続けようと思います。

ケアセンターふれあい
松下公典

まちがいさがし 1・2月

正解者のうち5名の方に
図書カードを差し上げます。

まちがいは8つ



作・小田 求



【応募のきまり】

〈締切〉2026年2月5日(木) ◇当選者は2026年3・4月号に掲載。

〈応募〉1人1通。はがき又はEメールで。

氏名(投稿はペンネームでも可)、院所名(職場・職種)、OBの方は在職時の法人名を記入の上、下記へ送付して下さい。

〒650-0047 神戸市中央区港島南町5丁目3-7
兵庫民医連ニュース「クイズ」係

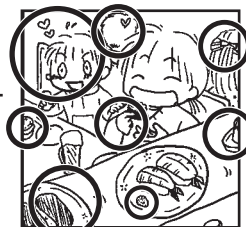
〈Eメール〉kikansi@hyogo-min.com

※余白に、①興味深かった記事と感想、②事業所での取り組み紹介、③近況、④ニュースへのご意見等、お書き下さい。

11・12月号の応募者は7名で全員正解でした。右記の5名の方に図書カードを進呈。

- ① 松下 公典 (ケアセンターふれあい)
- ② あ か こ (ペンネーム)
- ③ ち こ (ペンネーム)
- ④ 栗林 由季 (ヘルパーステーションあばし)
- ⑤ ぴかちゅう (ペンネーム)

11・12月号
の答え



法人 topics

社会福祉法人 虹の会

連載コーナーです。

法人で“キラッと輝く”職員の、民医連で働き続ける理由や、こだわりを紹介します。

特別養護老人ホーム 立花あまの里

宮前 昌和さん

介護職



入職したきっかけ

以前、別の施設で特養の介護職として勤めていました。介護福祉士の資格を取得して数年後、スキルアップのため、立花あまの里で働いてみたいと考えるようになり入職しました。

仕事でのこだわり・民医連で働き続ける理由

利用者様との信頼関係を築き、要望などにしっかり応えていくよう心掛けています。

2017年5月から立花あまの里に入職して、石川県の被災者支援や長崎県の原水爆禁止世界大会に参加し、貴重な経験をさせていただきました。また、研修や学習会等多岐にわたって学ぶ機会があり、自分自身を高める事ができていると思います。

目指すのは

介護の仕事をしていく中で、さらなるスキルアップを図るためケアマネジャーを目指し奮闘中です。ケアマネジャーの資格を取得後は、少しでも施設のお役に立てるよう努めてまいります。私は、仕事の能力が高い訳ではありませんが、介護の知識、技術の向上に努め利用者様により良い生活を送っていただき、笑顔になれるケアを行ってまいります。

社会福祉法人 虹の会

外国人留学生の受け入れ、一緒に働く「仲間」として！

社会福祉法人 虹の会・立花あまの里 堀 文哉

第9期・介護保険事業計画の介護サービス見込み量等に基づく、介護職員の必要数を集計すると、2026年度には約240万人（現状から約25万人不足）、2040年度には約272万人（現状より約57万人不足）となっています。

虹の会としても、多岐に渡り、人材確保の取り組みを継続していますが、遅滞しているのが現状です。

そこで、これまで検討をしてきた外国人労働者についても選択肢を拡げることで方向性を確認しました。

2023年度、A専門学校より、留学生受け入れについて依頼があり、法人として協議を行い、2024年度より、4名の介護留学生を、立花あまの里（2名）、あまの里（2名）にて受け入れを開始しました（2025年度も4名の受

け入れをしている）。

介護留学生（将来の外国人介護福祉士）が、いきいきと活躍できる職場とは？を念頭に、互いの文化を知ること、互いを尊重することで、より良い介護サービスを、一緒に提供していきます。介護留学生は単なる「労働力」ではありません！一緒に働く「仲間」として共にケアを進めていきます！！

